

広島市における感染症発生動向調査結果について (2005 年)

生活科学部

はじめに

平成 11 年 4 月、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」が施行され、感染症発生動向調査事業が全国的規模で実施されている。広島市では、平成 13 年 4 月から衛生研究所に感染症情報センターを設置し、感染症情報の解析、提供を行っており、今回、2005 年の広島市における感染症患者発生状況をまとめたので報告する。

方法

1 対象疾患

対象疾患は、国の実施要綱に示されている一類感染症(エボラ出血熱等 7 疾患)、二類感染症(急性灰白髄炎等 6 疾患)、三類感染症(腸管出血性大腸菌感染症 1 疾患)、四類感染症(E 型肝炎等 30 疾患)、全数把握対象の五類感染症(アメーバ赤痢等 14 疾患)及び定点把握対象の五類感染症(インフルエンザ等 28 疾患)の合わせて 86 疾患とした。

2 患者情報の収集

全数把握対象の感染症については市内医療機関から、定点把握対象の五類感染症については定点医療機関から週単位又は月単位で、各行政区に置かれている保健センターに届出又は報告される。各保健センターでは、感染症発生動向調査システムにより患者情報の入力処理と感染症情報センターへの報告処理が行われ、感染症情報センターでは全市分の集計処理を行った。全国情報は、中央感染症情報センター(国立感染症研究所)から還元されるデータを用いた。

3 定点医療機関

定点把握対象の五類感染症については、定点医療機関(患者定点)から疾患区分により週単位又は月単位で報告される患者発生情報を収集した。市内に置かれた患者定点の内訳は、インフルエンザ定点(小児科定点を含む) 37、小児科定点 24、眼科定点 8、性感染症定点 9、基幹定点 7 である。

4 調査期間

平成 17 年 1 月 3 日～平成 18 年 1 月 1 日(2005 年第 1 週～第 52 週)。

結果

1 全数把握対象疾患

医療機関から届出のあった疾患は、二類感染症はコレラ、細菌性赤痢の 2 疾患、三類感染症は腸管出血性大腸菌感染症、四類感染症は A 型肝炎、オウム病、つつが虫病、マラリア、レジオネラ症の 5 疾患、五類感染症はアメーバ赤痢、ウイルス性肝炎、急性脳炎、クロイツフェルト・ヤコブ病、後天性免疫不全症候群、ジアルジア症、梅毒、破傷風の 8 疾患で、合わせて 16 疾患であった。一類感染症については届出がなかった。2005 年における各疾患の届出数を表 1 に示した。比較的届出数の多かった疾患は次のとおりである。

(1) 腸管出血性大腸菌感染症

15 人の届出があり、2004 年の 47 人から大きく減少した。すべて散発事例であった。月別では、5 月、8 月が 4 人、9 月、10 月が 3 人、6 月が 1 人であった。血清型別では、O-157 が 11 人(73.3%)、O-26 が 3 人(20.0%)、O-111 が 1 人(6.7%)であった。年齢別では、子どもの患者が多く、19 歳以下が 11 人と 73%を占めていた。

(2) 後天性免疫不全症候群

12 人の届出があった。このうち無症候性キャリアが 8 人、エイズが 3 人、その他が 1 人であった。

表 1 全数把握対象疾患の届出数(2005 年)

類型	疾患名	届出数
二類	コレラ	2
	細菌性赤痢	2
三類	腸管出血性大腸菌感染症	15
四類	A 型肝炎	8
	オウム病	1
	つつが虫病	4
	マラリア	1
五類	レジオネラ症	3
	アメーバ赤痢	7
	ウイルス性肝炎	4
	急性脳炎	1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2
	後天性免疫不全症候群	12
	ジアルジア症	1
梅毒	4	
破傷風	1	

性別では、男性が10人、女性が2人と男性が多かった。年齢別では、40歳代が6人と多く、20歳代、30歳代がともに3人であった。感染経路は、性行為によるものが11人でほとんどを占めており、同性間が9人、異性間が2人であった。

(3) アメーバ赤痢

7人の届出があった。感染経路は、性行為によるものが5人と多く、経口感染が1人であった。

(4) A型肝炎及びウイルス性肝炎

四類感染症であるA型肝炎は、8人の届出があった。また、五類感染症であるウイルス性肝炎は、4人の届出があり、病原体はすべてB型であった。このうち2人が性行為による感染であった。

2 定点把握対象五類感染症

(1) 週単位報告疾患

インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点及び基幹定点から毎週報告される21疾患の報告数を表2に示した。年間の定点当り累積報告数は、感染性胃腸炎の406人が最も多く、続いてインフルエンザ307人、流行性耳下腺炎128人、手足口病126人、水痘84.3人、流行性角結膜炎56.4人、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎53.6人、突発性発疹36.8人などとなっている。報告数が比較的多く、年間の推移に特長が認められたインフルエンザ、感染性胃腸炎、手足口病及び流行性耳下腺炎について検討した。これら4疾患について、広島市と全国における週別の定点当り報告数の推移を図に示した。

a インフルエンザ

年間の定点当り累積報告数は307人で、前年の169人と比べ前年比1.81と増加した。16年/17年シーズンは、17年第3週に定点当り1.16人と例年よりやや遅れて流行期に入った。流行のピークは17年第8週(定点当り55.8人)で、第9週はほぼ横ばいで推移した後減少し終息に向かったが、流行末期の第16週から第17週にかけて再び増加し、第21週まで定点当り1人以上の状態が続いた。

b 感染性胃腸炎

年間の定点当り累積報告数は406人で、前年の464人と比べ前年比0.87とやや減少した。年間の累積報告数は、小児科定点患者総数の46.0%を占め、小児科定点報告対象疾患の中で最も多かった。

第2週に定点当り20.4人のピークとなった後は、概ね減少傾向で推移し7月～10月ごろにかけて低

い水準であった。第46週ごろから再び増加が始まり、第50週に定点当り19.5人のピークとなった後減少した。

c 手足口病

年間の定点当り累積報告数は126人で、前年の9.92人に比べ前年比12.7と大きく増加し、2003年に次ぐ大きな流行となった。年間の累積報告数は、小児科定点患者総数の14.3%で、小児科定点報告対象疾患のうち3番目に多かった。

年初から例年同時期と比べて報告数が多く、第16週には定点当り1人以上となった。その後増加傾向で推移し、第27週に定点当り20.9人とピークを迎えた。以降は減少し、第34週に定点当り1人未満となった。

d 流行性耳下腺炎

年間の定点当り累積報告数は128人で、前年の29.0人と比べ前年比4.39と大きく増加した。年間の累積報告数は、小児科定点患者総数の14.5%で、小児科定点報告対象疾患のうち、感染性胃腸炎に次いで2番目に多かった。

年初から増加傾向で推移し、6月から8月の夏季に多くなった。8月から9月に減少したが、10月から12月にかけて再び増加傾向となった。

(2) 月単位報告疾患

月単位で報告される定点把握五類感染症(性感染症定点から報告される性感染症4疾患及び基幹定点から報告される薬剤耐性菌感染症3疾患)の報告数を表3に示した。

a 性感染症

性感染症4疾患のうち、年間の定点当り累積報告数が最も多かったものは、性器クラミジア感染症の20.3人で、次いで淋菌感染症の10.2人であった。性器ヘルペスウイルス感染症と尖圭コンジローマを加えた性感染症4疾患の総数は、前年比0.89とやや減少した。

b 薬剤耐性菌感染症

年間の定点当り累積報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が67.6人と最も多く、次いでペニシリン耐性肺炎球菌感染症32.9人、薬剤耐性緑膿菌感染症2.59人の順であった。薬剤耐性菌感染症3疾患の総数は、前年比1.00と横ばいであった。

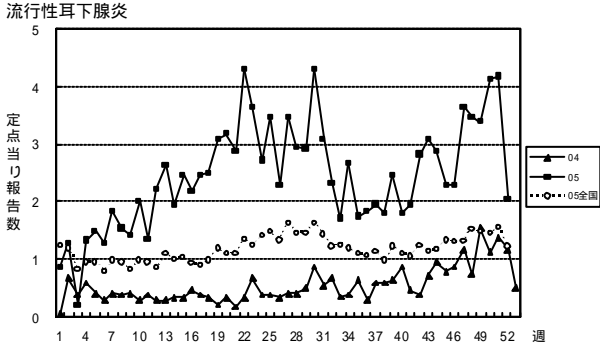
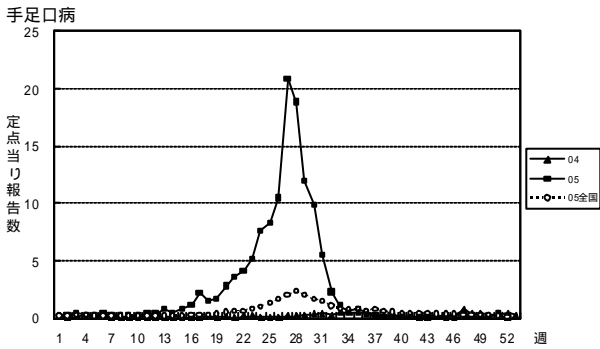
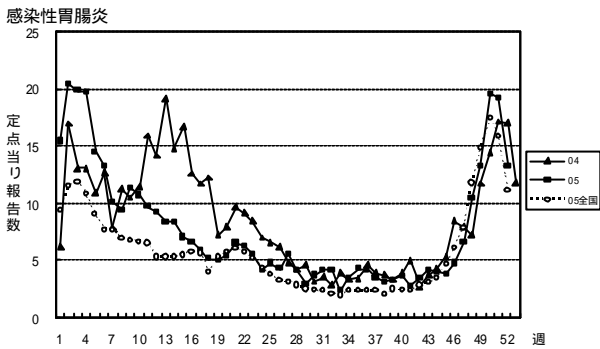
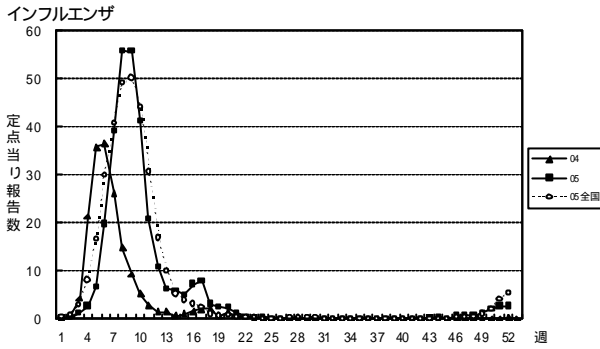


表2 定点把握対象五類感染症患者報告数
(週単位報告分) (2005年)

疾患名	報告数	
	()内は定点当り	累積報告数
インフルエンザ	11,312 (307)	
咽頭結膜熱	304 (12.8)	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1,280 (53.6)	
感染性胃腸炎	9,697 (406)	
水痘	2,014 (84.3)	
手足口病	3,028 (126)	
伝染性紅斑	303 (12.7)	
突発性発しん	879 (36.8)	
百日咳	61 (2.45)	
風しん	10 (0.40)	
ヘルパンギーナ	458 (19.3)	
麻しん	3 (0.12)	
流行性耳下腺炎	3,053 (128)	
RSウイルス感染症	269 (11.3)	
急性出血性結膜炎	9 (1.16)	
流行性角結膜炎	450 (56.4)	
細菌性髄膜炎	6 (0.84)	
無菌性髄膜炎	88 (12.6)	
マイコプラズマ肺炎	62 (8.84)	
クラミジア肺炎	0 (0.00)	
成人麻しん	0 (0.00)	

表3 定点把握対象五類感染症患者報告数
(月単位報告分) (2005年)

疾患名	報告数	
	()内は定点当り	累積報告数
性器クラミジア感染症	183 (20.3)	
性器ヘルペスウイルス感染症	85 (9.46)	
尖圭コンジローマ	33 (3.65)	
淋菌感染症	92 (10.2)	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	473 (67.6)	
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	230 (32.9)	
薬剤耐性緑膿菌感染症	18 (2.59)	

図 定点当り報告数の週別推移